

令和元年度大学入学者選抜方法の改善に関する協議  
「大学入試英語4技能評価ワーキンググループ」(第5回)

令和元年6月19日

【山口座長】 それでは、時間でございますので、ただいまより、大学入試英語4技能評価ワーキンググループの第5回を開催させていただきます。

本日の議題は、1つ目が、前回会議での主な御質問、御意見について、2つ目の議題が、高校生向け受験ニーズ調査について、3つ目の議題が、2021年度入学者選抜に向けた各大学の検討状況結果及び国立大学における英語資格検定試験の活用見込みについて、4つ目の議題が、その他となっております。

まず、事務局より資料の確認をお願いします。

【竹花大学入試室長補佐】 それでは、本日お配りしておりますワーキンググループの議事次第を御確認いただければと思います。

本日、配付資料といたしましては、資料1から資料7まで。また、参考資料として資料1から資料5までを御用意しております。不足等ございましたら、事務局までお知らせいただければと思います。

以上です。

【山口座長】 それでは、1つ目の議題に入りますけれども、まず、前回会議での主な御質問、御意見につきまして、事務局から資料の説明をお願いします。

【竹花大学入試室長補佐】 それでは、資料1をごらんください。前回の本ワーキンググループで、委員の先生方から御質問、御指摘があった件について、3点質問事項をお示ししております。本日、現時点の我々の考えということで、口頭で回答を御紹介をさせていただきたいと思っております。

まず1点目なんですけれども、経済的困難者の対象者の確認方法についてということで、東京都の私立高校については、奨学給付金の申請手続に関して私学財団に個人で申込みということで、学校の方では一切関知していない、合理的にきちんと把握できるような方法を検討してほしいということでした。

こちらについては、現行のセンター試験についても同様なんですけれども、基本的には受験申込み手続に関しましては、受験生が所属する高等学校で取りまとめて行うこととし

ておりまして、共通テストで活用する英語資格・検定試験についても同様の考えでやらせていただきたいと考えております。

具体的な申込み方法につきましては、センターが今後作成、公表する共通ID発行申込み案内においてお示しさせていただくこととしておりますが、高等学校等の在学者につきましては、受験料減免の申請をする場合には、在学する高校において、受験料減免対象者であることを確実に確認をしていただいた上で申請いただくことを予定しております。ですから、御指摘のような、高校において当該在学者が受験料減免対象者であるか否かを把握していない場合には、課税等証明書類にて確認いただくことになろうかと思っております。今後の高等学校向け各種説明会等でこのような手続等については、申請方法については分かりやすく周知をしまいたいと考えています。

それから、2点目ですが、例外措置に該当する高校2年生の受験料の扱いについてでございます。こちら、高校2年の成績については、経済的な事情によって高3の成績に代えて活用できるという例外措置になっている以上、経済的に困難な事情を有する生徒について、高2の受験料についても低減すべきではないかといった御指摘がございました。

こちらについては、そもそも大学入試英語成績提供システムにつきましては、高3の2回までの成績を原則として、仮に高2の成績を有していた場合には救済するという例外措置でございます。これも、仮に高2の受験料について低減した場合には、国が高2の受験を推奨、あるいは受験の早期化を容認しているともとられかねないので、高2については、高3の受験と同様に配慮を要請するといったような予定は現在ございませんで、あくまでも実施団体の判断に委ねられると考えております。

それから、3点目、トラブル等発生時の大学側の対応例です。こちらにつきましては、何らかのトラブル等が発生して、成績が使えなくなるといったようなトラブルが発覚した場合に、大学がどのような対応すべきか。個別に対応するのか、それとも、国でガイドラインのようなものを示すのかといったような御指摘がございました。

こちらにつきましては、やはり、様々なトラブルについて一つ一つ発生時期によっても、トラブルの大きさによっても、どこでトラブルが起きたかによっても、様々なトラブルが想定されますので、基本的には、トラブルが発生した際に、文科省、入試センターで連携して、実施団体、それから各大学に不利益が生じないように、しかるべき対応を要請するというのが原則になろうかと思っております。

一方で、これまでのワーキンググループでもお示ししました、トラブルとその対応例み

たいな資料を以前お示ししておりますけれども、そういった資料をもう少しリバイスしたものをまたこちらの本ワーキンググループで配付して情報交換、あるいは意見交換をさせていただくということは考えられるかなと現在では考えております。

以上が、現時点での文科省としての考えをお伝えしました。また、様々な議論を経て、改めて正式な形で回答をお示しできればと考えております。

以上でございます。

【山口座長】 ありがとうございます。ただいま説明のございました内容につきまして、御意見、御質問等ございましたら、どなたからでも結構でございますので、御発言をお願いします。

【三浦大学振興課長】 補足をよろしいですか。済みません。失礼します。

今、資料1について御説明させていただきました。これは、前回の会議で頂いたものについて整理をしたものでございますけれども、今、少し担当からも申し上げましたとおり、今後、様々な確認事項のようなものが出てまいると思いますので、それをどこかの段階できちんと整理をして、もちろん、関係者による会議で共有するというのも重要だと思っておりますが、その上で、この会議の外に向かって、大学ですとか、高等学校、あるいは高校生に対して周知すべきことをまたさらに整理をしてきちんとお示しをするということも含めて考えているということを少し補足させていただきます。

【山口座長】 以上を踏まえまして何か御質問。どうぞ、田中先生。

【田中委員】 今の御発言は非常に重要だと思うんですけど、つまり、それをいつ、どういうタイミングでなされるおつもりでしょうか。

【三浦大学振興課長】 今、いつまでにということを確認に申し上げられる段階ではありませんけれども、例えば、最初に申し上げた(1)にあります経済的困難者の確認方法にしても、関係団体との調整も必要でございますので、そういうのが整った上でということ、また、それが事柄ごとにだらだらとお示しをするのがいいのか、そこも是非この会議の御意見も伺いながら調整をしたいと思っております。この会議は忌憚のない意見交換をするという目的で、非公開ということでやらせていただいておりますが、決まったことについて外に発信をしていくということが大事だと思っておりますので、また、御相談をさせていただきますながらと思っております。

【田中委員】 一言だけ。御存じのとおり、きのうこの件に関して、国会に請願が出されました。その基の文書を見ますと、文科省から複雑な制度の詳細がばらばらに出てきて

分からないというような指摘もございますし、情報の周知が遅れている、それから、トラブルや不正の対応が責任ある体制でなされるのかどうか非常に不鮮明であるという指摘がなされておりまして、このあたりは、おっしゃるとおり早く情報を整理して、まとまった形で出すことが重要ではないかと思いました。コメントです。失礼しました。

【山口座長】 ありがとうございます。ほかに。一応、この3つの問題について、考え方が説明されたと思うんですけども、さらなる質問、あるいは注文等ございましたらお願いします。よろしいでしょうか。どうぞ。

【石崎委員】 失礼します。例外措置の件なんですけれども、例外措置については、もう既に今対象機関となっているんですよね。1年前からですから、今まさに令和元年度に受けたものが例外措置として使われるという状況にあると思うんです。きのうちちょっと別のところでも言わせていただいたんですけども、そういう状況の中で、例外措置の受験料の扱いもそうですし、そもそも例外措置自体がどのように扱われるのかということについても、きちんと周知されていない状況にあると思うので、今もう現在進行形であるということについては、一刻も早く知らせていく必要があるのではないかなと思います。

ただ、きのう別の考え方も示されたんですけども、一方で、あくまで例外措置だから、これが受験競争をあおるような形になってはいけないという配慮は必要だと思うんですが、でも、現在進行形である以上は、やっぱり、きちんと知らせるべきことは知らせないといけないのではないかなと考えます。

【山口座長】 ありがとうございます。

【三浦大学振興課長】 お答えというわけではないんですけども、その別の会議に私もいたものですから。

現在、センターで高校生のIDの手続の書類というか、準備をしております、その中に当然入っています。その書類はかなりボリュームのあるものになる予定でございまして、その中には今の御指摘のものは入っていると言えば入っているんですが、かなりのボリュームの中に入っているということもあります。まさに今おっしゃっていただいたように、そこだけ抜き書きして積極的に公表すると、今から受けなきゃだめだよみたいな誤解を生じてもそれは本意ではありませんので、それを高等学校の先生方に御説明する機会もありますので、そういう中で、きちんと伝わるようにする工夫というのを入試センターとも相談しながらやっていきたいと思っています。

【義本委員】 センターとしまして、私も昨日の会議に出ていましたので問題意識を共

有しておりますので、今後、夏に全国7ブロックで高校関係者に対して御説明する機会の中においてはその分厚い資料もありますけれども、端的に何がポイントなのかとか、いろんなそういうことがございますから、それを整理した一環の中にそういう例外措置の情報も少し整理した形で分かりやすくお示しできるような、そういう資料も少し考えたいと思っております。

【山口座長】 ほかにございますか。どうぞ。

【萩原委員】 萩原です。いろいろ今もお話を伺っていて、外に情報を発信していくということをお話を伺っているところではあるんですけども、私ども全高長で、新聞報道等によってなんですが、私学協会の方で、文部科学大臣に何らかの要請があったと伺っているんですけど、具体的にどんなような内容なのでしょうか。【山口座長】 どうぞ。平方委員。

【平方委員】 今回の件に関しては、文科大臣に直接要請文を出しました。手渡して、その場で説明して、今、どう考えても、三浦課長もそのとき同席していたからお分かりだと思えますけど。

【三浦大学振興課長】 済みません。大学というふうに今思っていたものですから。中高連の。

【萩原委員】 中高連の。

【三浦大学振興課長】 はい、それは。

【平方委員】 今回の萩原先生のはそういうことですね。

【三浦大学振興課長】 はい。大臣宛てに頂いています。

【平方委員】 課長から答えてもらった方がいいと思います。

【三浦大学振興課長】 今手元に紙がありませんけれども、4技能を適切に進めていくべきだという趣旨の要請文を頂いて、大臣としては、しっかり進めていくとこういう趣旨の御回答をしたということぐらいしか今は申し上げることはないんですが。具体的に何かこれがこうだとか、御要請があってこれこれこうしますというふうに具体的に何かお答えしたということはありません。

【平方委員】 要請文はどこかに出ていると思いますので、そのことを文科大臣は全て受け止めて、そのように動くというふうにお答えいただきました。と同時に、このワーキンググループのことも意識して、そこでしっかりやっているからという、そういう言い方をされて終わっています。そのほかにもあったんですけど、特に4技能に関しては、英語に

関してははっきりと受け止めて、それを特に受験生、今の高校2年生ですよ、その辺が迷わないようにちゃんとやっていくという、そういうお答えを頂いております。

【三浦大学振興課長】 そうですね。だんだん思い出してきました。

特に大学に対する要請というのも強く頂いております。大学側がどういうふうを活用するのかということについて早く公表しないと高校生も迷ってしまうと。早く大学側が詳細について決定、公表するということについて、大臣としても尽力いただきたいという趣旨のことがありまして、前後して、その前に文科省としても各大学宛てに通知を出したりしていますので、そういったことについてやりとりをしたというふうに記憶しております。

【山口座長】 どうぞ。

【羽田委員】 先ほど、情報について決まったところからなるべく早く外に出されるというお話を伺って、それ自体は是非急いでやっていただければと思うんですけども、やっぱり、高校の現場でその情報を3年なり担当される先生方一人一人に確実に伝えるというのは非常に、思った以上に時間が掛かると思うんです。先ほども、入試センターの方から、7月で高校の先生方を対象にというお話がありましたけれども、1回か数回ぐらいそういう話をして、それぞれの先生方に、きちっとした正確な情報が伝わるとするのはなかなか厳しいのではないかとこのように我々の経験からはお答えしたいと思っています。

教育委員会の方も実は情報が乏しい状況で、学校に対してどのような情報を発信するか、また、教育委員会が所管しているいろんな会議がありまして、校長を対象にするとか、教務主任を対象にするとか、そういう、いろんな階層で会議を構成して、その都度情報を伝達しているというふうな仕組みもありますので、是非そういったものを積極性に活用していただいて、出せる情報、これは間違った情報が行って、風評じゃないですけども、何かあおるような、そういう動きというのは受験生にとって非常にマイナスになりますし、不安をあおるだけですから、正確な情報をきちっと伝えると。

IDについても非常に心配しているところです。年明けになるんでしょうか、本当に間に合うんだろうかというふうなところも現場からは声として上がってきていますので、是非、教育委員会とか、そういう組織をうまく活用していただけたら有り難いなと思います。

以上です。

【山口座長】 ありがとうございます。3つの議題におきましても、現時点での大学の活用状況等の情報、この会議ではそのたびに少なくとも皆様にはお伝えするという努力も行っているところでございます。

萩原先生。

**【萩原委員】** この間、例えばNHKの「時論公論」で、大学入学共通テスト、そのものが見切り発車でいいのかとかということで、4技能の民間検定試験について、問題点等が放映されていたり、また、先ほど田中委員からもお話がありましたように、テレビとかニュースとか、本日の朝刊でも、かなり英語民間試験の導入の中止要請の記事が掲載されていることで、実は学校にいまして、保護者の方からどういうふうな方向になっているのかと、学校からも情報は一切出ないし、文科省のホームページを見ても分からない、今うちの子は2年生で来年どういうことになるのかと、私が全高長の会長をやっているということも分かっておりまして、ですから、先生なら情報を持っているのではないかとということで、かなり言われる部分が日増しに多くなって来る、そういう状況です。

今のこの状態、何らかの、情報を発信していくという話を伺っているところではありますけれども、例えば、文科省として、今こういういろんな話が出ているところについては、こうなんですという形でのコメントとかを出されていくという方向性があるのか。基本的には、この問題は、これまでの課題について、文科省が新制度で受験する高校生たちが安心して受験できるよう、具体的な方策を十分に示し切れていないということにもあるのではないかと考えています。

できるだけ早くに、いろいろな情報を、それも高校の先生方にまず出していただいて、その上で保護者にもということで、きちっと伝えるという何らかの対応をお願いをしたいということです。

以上です。

**【山口座長】** よろしいですか。

**【三浦大学振興課長】** 一言だけ。御指摘ももっともだと思いますので、我々として努力したいと思っています。

最初に御紹介いただきました、きのう国会に対する請願がございましたけれども、あれは国会に対する請願でございまして、手続に沿って国会の中で処理をされるということでございますので、我々がそれについてどうこうというわけではないんですが、一方で、請願とは別に、その要請文というもの我々頂いていますので、それは頂いてそういう懸念がないように我々は努力してまいりますということしかないんですけれども。その中で、例えばこの会議において、きっかけは、一番最初は、例えば参考書の扱いをどうするんだというようなことから第1回でお話をさせていただいたと思っていますし、実際の本番の試験

の日程とか会場とかということをしてできるだけ早く各団体側に公表していただきたいというような御要望を踏まえて、団体によってはかなり前倒しで、概要という形ではありますけれども、公表していただいているような例もございますし、その意味では、このワーキンググループを設置させていただいて、意見交換をさせていただいた成果というのは、それなりには出ていると我々は認識しているんですが、御指摘はごもっともだというふうに思っています。ホームページに張り付けておいて、あとは見てくださいというわけにはいきませんので、適切な伝達の仕方ということも含めて、また今ほど教育委員会も活用していただきながらというようなアドバイスも頂きましたので、御相談させていただきながらやりたいと思っています。

【山口座長】 ほかに何かございますでしょうか。また、公表の仕方と具体的な問題は文科省に詰めていただくことにして、とりあえず、次に進ませていただきたいと思います。

次の議題は、高校生向け受験ニーズ調査について意見交換を行いたいと思います。事務局から資料の説明をお願いします。

【竹花大学入試室長補佐】 それでは、資料の2-1をごらんください。受験ニーズ調査についてということで、これも高等学校サイドの御理解が得られればということにはなりますが、昨年度に引き続きまして、今年度もニーズ調査を実施させていただけないかと考えてございます。本日は、こういった形で調査をしますという案まではいっていないんですけれども、こういう形でいかがでしょうかという形で資料を作成させていただいております。

まず、これはおさらいになりますけれども、1ポツとして、昨年度の調査についての概要をお示ししております。昨年度は、全国の公私立高等学校に対して調査をさせていただきました。調査方法については、(2)のとおりそれぞれ、公立については都道府県の教育長取りまとめ、私立については知事部局取りまとめ、国立については学校別に直接回答いただいたという形になります。

肝心の調査項目の方でございますけれども、昨年度は幅広く情報をとりたいという観点から、昨年度時点の高校1年生が高校3年生になった際に、どの試験をどの月に何名受験するかという観点でまず質問を必須回答としてさせていただきました。

そのほかにも、いわゆる練習受験のようなニーズがどれだけあるかということもある程度把握できるかということで、昨年度は2020年度時点の高1生、高2生、高3生について、どの月に何名受験されるかということで、これは任意回答で調査をさせていただいたところ

です。

そのほかにも、Q3, 4, 5, 6のとおり、例えば、会場貸与の可否ですとか、貸与する際の減免の有無、機器の貸与の可否、それから、学校からや最寄りの都道府県所在地までの片道移動時間といったようなものも併せて調査をさせていただいたところがございます。

それで、参考までに資料2-2のとおり、昨年度は5月21日付で事務連絡を发出させていただきまして、9月14日までということ調査をいたしました。

この資料2-2の一番最後に、これも昨年12月に公表した結果でございますが、こちらの資料のとおり、調査期間から3か月ぐらい集計に要しましたけれども、こういった形で全体版の月ごとの予想受験者数というものを公表いたしまして、各実施団体ごとの細かい内訳については、各実施団体様の方に集計結果をフィードバックしたところがございます。

このような経緯を踏まえまして、今年度につきましてでございますが、資料の2ページ目をごらんください。去年は様々な観点を調査させていただいたところでございますが、やはり、高等学校の教職員の方々の負担にも配慮しなければいけないと思っておりますし、または、やはり、調査のスピードというものもございますという観点から、今年度させていただけるのであれば、質問項目はなるべく厳選した方がいいのではないかとというふうに考えております。具体的には、現在の高校2年生が高校3年生になった際に、成績提供システムの利用を前提として共通IDを記載して、どの参加試験をいつ受験するかという質問に限定してはどうかというふうに考えております。

また、昨年度については、例えば、英検さんであれば、1級、2級というふうに級ごとの項目しか調査していなかったんですけれども、そういった部分はなるべく試験の種別ごとに、可能な限り精緻な調査をするために項目はきっちり分けて、さらには、去年はどれを受験するか分からないといったような項目を設けていたんですけれども、そこは可能な限り質問項目は絞りつつ、そういったところはきちんと具体的に回答していただけるような形にしてはどうかと考えております。

また、回答方法につきましては、これは昨年度と同様でございますが、生徒本人に一々アンケートをとって聞いてもらうということまで求めるというのは適切ではないのかなと考えておまして、昨年同様、学校単位で先生方の方で見込み、あるいは学生の意向を反映して集計していただければどうかと考えてございます。ただし、当然その学校の判断ではございますけれども、生徒に対してそれぞれアンケートをとるなどにより聴取していただくことも、それを妨げるものではないのかなと考えております。

それと、調査の時期についてでございますけれども、やはり、今回はなるべく数値に信憑性がないと余り意味がないというふうに考えておりました、各試験実施団体さんの方で、スケジュールですとか試験会場がおおむね公表される予定と伺っているのが大体秋頃というふうに認識しておりますので、実施団体の情報が出そろったあたりに調査を開始いたしまして、年内ぐらいには取りまとめて、団体さんにフィードバックしつつ対外的にも全体の数値は公表していくといったことではどうかと考えております。

これは多分、高校側それから実施団体側それぞれ様々なお考えがあるかとは思いますが、是非、忌憚のない御意見を頂戴できればと考えております。

説明は以上でございます。

【山口座長】 ありがとうございます。ただいま説明がございました内容につきまして、御質問、御意見等がございましたら、どなたからでも結構ですので、御発言をお願いいたします。どうぞ。

【前田委員】 アンケートの結果が、昨年、実施から結構たった段階で来たんですけども、今年は大体何月ぐらいをめどに集計結果を発表される御予定でしょうか。

【竹花大学入試室長補佐】 それも一応年内を目途にということを考えております。結構、メールで照会をさせていただいて、メールで頂戴して手作業で集計ということで、昨年度は結構調査項目も多かったですし、初めての試みというのもあったので、かなり集計に時間を要したと。ただ、これも早めに集計して団体さんに返さなければいけないと思っていますので、そういう観点も加味してなるべく調査項目も厳選していった方がいいのかなと考えてございます。

【山口座長】 どうぞ。

【石崎委員】 今のスケジュール絡みなんですけれども、このアンケートをやることによって何が得られるのかという様々あるとは思いますが、一番配慮すべきは、やっぱり受験生が希望の時期にきちんと自分の希望したものを受けられるというところにあると思うんです。各団体様が今の年内にその数をもたらったところで、その数を見てこの数が受けられるように手配しますという、スケジュール的にそういうことが可能なかどうかというのを伺いたいと思うんですが。

【前田委員】 IELTSからなんですけど、ブリティッシュ・カウンシルの安田委員も横にいますので、顔を見ながら確認したいと思うんですが、1つに、何月頃出ますかという確認をしたのは、やはり、早ければ早い時期の方が準備はできると思っています。ただ、IELTS

に関しては、もともと日程ということに関しては固定はされているので、日程自体は行か  
るんですけど、地域ですよ。思わぬ、例えば地方、例えば、前回の調査ではなかったけれ  
ども、今回上がってきてニーズが高いというふうになった場合、4月から12月の間でできる  
ように、最大限の努力をするという方向に関しては変わっておりません。

【山口座長】 GTECの。

【込山委員】 GTECの込山です。お世話になります。

弊社としましては、以前のワーキンググループでもお伝えさせていただきましたとおり、  
既に意向調査の方を、これはあくまで文科省さんの方での調査ではありませんので任意の  
回答ではありますし、どれぐらい返ってくるかというところではあるんですけども、既  
に5月20日頃に、全高等学校様の方に書類を校長先生宛てで送らせていただいております。  
これは、公立私立関係なく全て送っております。それで、7月の下旬に締め切りという形で  
情報を取りまとめる予定ですので、今後の文科省さんの調査の数字ももちろん気になると  
ころではあるんですけども、先ほどお話にありましたとおり、石崎先生の言う準備に間に  
合うのかということに関して、先立って我々の方は独自で調査をさせていただいており  
ますので、その数字の状況を見ながら定めていきたいなとGTECとしては思っております。

【山口座長】 英検さんからも何か一言お願いしたいんですが。

【塩崎委員】 大変参考になる調査というところでございまして、大変有り難く思いま  
す。出てくる数にもよるかなとは思いますが。どのぐらい多いのか少ないか。弊会の特に英  
検の新方式にしましては、回数を多くやるということをプレスリリースさせていただきましたので、日程についてはかなりフレキシブルにいろいろと御要望に沿えるかなというふ  
うには思いますが、出てくる数によるところも非常に大きいかなとは思いますが。

【山口座長】 それでは、もう一度、この調査をすることについて、高校側からの御意  
見はいかがでしょう。

【羽田委員】 現場は今、教職員の働き方改革というのが真ただ中でありまして、県  
の教育委員会も調査を減らす、それから会議を減らすということで、本当に苦労している  
ところなんです。

そういう中での調査、これは必要な調査だという認識はしていますけれども、是非、質  
問の項目は限定していただきたいのと、それから、前回もあったと思うんですけども、  
各試験団体の正確な情報を分かりやすい形で学校に提供いただけたら有り難いと思いま  
す。曖昧なまま生徒たちに選ばせると、結局、データの信頼性も損なわれますので、是非、

そういうところは御留意いただけたら有り難いと思います。

あと、ベネッセさんの方でも独自の調査をやられていると言うんですが、似たような調査が各団体から来られても、現場も非常にやっぱり、またかというふうなことを実はそういう意見も届いています。必要だからやるという立場は分かるんですけども、受ける側からすると、いろんなところからいろんな調査が来て、これはどうなんだあれはどうなんだということで本当に疲弊していますので、そこら辺は交通整理をしていただけたら有り難いなと思います。

以上です。

【山口座長】       どうぞ。

【青山委員】       ケンブリッジ英検からです。年内に調査の結果が出た際に、もちろん参考にはなります。正直、夏ぐらいには、公開テスト会場に関してはもうめどを付けます。ただ、需要があれば大きめの教室をアサインしてですとか、そういう反応はできるのかなと。

ただ、それよりも、私どもも、今、2021年度のグローバルな世界試験日というもののファイナルが来ているようなそんな状況ですので、そちらの方に参考にもなるのかなといったところで、何らかの形で活用はさせていただきたいと思っておりますけれども、活用できる内容の設問を考えていただければ非常に有り難いなといったところが正直なところで、設問を考えられる際に、試験団体に御相談というような過程がないでしょうか。そうすると非常に助かるんですが。

【三浦大学振興課長】       今までの会議でも、口頭で、できれば2回目の意向調査をさせていただくようなことをお願いできないかという話を口頭ではさせていただいていましたが、会議の議題として、きょう初めて提案をさせていただきました。もちろん、この後も含めていろいろ御意見を頂戴した上で、まず、もちろん、やるかやらないかというものもありますけれども、もしやるとなった場合には、今ここで全部詰めるというわけにはもちろんいきませんので、調査票の案、項目、それから時期も含めてですけれども、調査票の中には、各試験団体のその段階での予定なども併せて載せていかないと、当然選べないでしょうから、各自ホームページから持ってきてくださいというわけにはいかないでしょうから、見やすくしないといけないと思っています。先ほど最初に出ました時期、本当に年内でいいのかということも、もうちょっと早くなれば対応できるというようなことがあれば、それも、決定事項をどこまで載せられるかということの時期との兼ね合いがあるんですけど

ども、それは、個別にこの後意見を頂戴して、調整しながらやりとりはしないと実際にできないと思っています。きょうここで全部決めるという趣旨ではもちろんありませんので、様々御意見を頂ければ有り難いと思います。

【石崎委員】 ありがとうございます。やっぱり、調査をやる意味というのは、出てきた数の受験生が、きちんと民間の試験を受けられるようにするというところにあると思うんです。数をとったんだけど、こんなにいっぱい来ちゃったから受けられませんという結論を出すのでは全く意味がないと思うんです。ですから、あくまで今回の調査の数に基づいて、受験生が希望の試験を受けられるようにする体制を作るという前提でのこの調査だという共通の理解が必要だと思いますので、そういうことでよろしいでしょうか。

【前田委員】 そのとおりです。

【山口座長】 どうぞ。

【平方委員】 全くそのとおりで、そのことを心配していたわけです。受験生が受けようと思ったらもういっぱいですと言われてしまったらどうするんだ。そういうことがないように調査をするという趣旨があったと思うんです。今は、月別の人数はもう出ているじゃないですか、公表していますよね。月別が出ているということは、各団体のももう文科省は知っているということですよ。合計しなかったらそれは出ないんだから。それを何で試験団体には出せない。これは混乱するからですか。あるいは、個別にもう伝えているんでしょうか。伝えていないと、試験団体の方も困ってしまいますよね。

【三浦大学振興課長】 団体ごとには伝えていきます。

【平方委員】 伝えているんですね。

【三浦大学振興課長】 伝えていきます。

【平方委員】 それでオーケーなんですか。

【前田委員】 去年の分ですよ。

【平方委員】 もちろんそうですけど、それに、答えた側としては、全部に公表にしろとは言わないけれども、答えた人に対しての情報を提供するという義務は、これは普通はあるのではないかと思いますけど。だから、1回、どんな形でもいいですから、公表できないですか。

【三浦大学振興課長】 各団体ごとに、何人の高校生が丸を付けたかというのは、様々な臆測を呼ぶということもあろうかと思ひまして、事前にその部分は公表しないと、全体の状況はもちろんお知らせしますが、これは、各団体に対して試験の実施会場を決

めるに当たって参考にさせていただき、それを実現していただくためにしたということでございますので、現時点で公表することは考えておりません。

ただ、また次の調査をやるとしたらということですが、次の調査をやるとしたら、それについて具体的にどうするのか、試験実施日程について、全然違う月に丸を付けられてもこれはもうどうしようもないわけで、そういったことも、実効性ある、やっぱり、高校1年生のときにやるというのは、調査の文面にも書かせていただきましたけど、これは無理は承知でお願いしているんです、各高等学校の先生にも申し訳ないと。だけど、全く何の手掛かりもなければ、その団体さんに、やみくもに準備をしてくださいと言うわけにもいきませんということで、高等学校サイドには申し訳なかったんですが、現時点で分かる範囲で書いていただければと。

それは、結果的にかなり信憑性のある数字になったと我々も思っていますので、それを基に各団体さんでも検討していただいていると思っていますが、さらに実際の会場、試験期日が公表された、それを早く公表してくださいというお話もありまして、その上でより精緻なものができるならば、今、御懸念があった受けたいのには受けられないみたいなことになくなるようにしたいと思っています。そのフィードバックをどうするかということについては考えたいと思っていますが、調査書の様式、どこに丸を付けるかということも含めて、これはまた団体さんと高等学校サイド含めて、よくよく御相談させていただきたいと思っています。

**【平方委員】** ということは、団体がきちっと対応できるようなことをまずは文科省としては把握したいということですね。

**【三浦大学振興課長】** 基本的にはそうです。

**【平方委員】** そうですよ。じゃ、生徒たちは、受験生たちはどうするのかというのを、ある程度の時期に公表しないと疑心暗鬼になりますよ。もう1回やろうとしても、本当のことを学校に伝えていくか、学校がその数字を本当に信頼性のある数字で書くかどうかというのまあやふやになってくるから、調査はしたら、ある程度の公表は是非していただきたいというふうに思います。

何しろ、スケジュールが物すごく押していますよね。高校2年生で考えれば、来年の4月から7月の間に、少なくとも1回、推薦試験とか総合型選抜を受けようとしている子たちはそこで受けなければならないわけですよ。ですから、そういう意味で、是非どこかで一度、ある程度信頼性のおける数を公表していただきたいと思っていますので、よろしくお願いま

す。

【三浦大学振興課長】 結果を踏まえ、だから、この調査自体をいつやっつけていつ締め切りにするかというのはすごく悩ましいところで、これもまた御相談させていただきたいと思うんですが。調査を仮にしました、各団体にお伝えをしました、そうすると、その各団体がそれを踏まえて、こういうことをしましたと言っただけの段階があると思いますので、会場を増やしたとか、人数がこうなったとかですね。その際に、また、これは仮の話ですけれども、全体として、高大接続改革というのをうまくやっていくためには、高等学校サイドにも一定程度の御協力を得ながら、絶対この日じゃないとだめだとかということではなくて、どういった調整の仕方があるのかまた今後御相談をさせていただきたいと思っていますが、全体としてうまく回るように、これだけ丸を付けたんだから、団体側はびた一文曲げられねえぜみたいな敵対する関係にあるわけではないと思っていますので、是非、まさにこういった場で意思の疎通をしながら、受験生の負担が極力減るように、何とか我々としても知恵を絞りたいと思っています。

【山口座長】 ほかに何か。

【奥委員】 私は短大の立場から出席させていただいている者なんですけれども、12月にこのワーキンググループは始まったかと思うんですけれども、4技能をやるということを前提と同じ船に乗って、受験要領、受験の手引きをずっとやってきているというふうに私は感じているんですけれども、新聞とかいろいろマスコミとかでは、4技能そのものをいろいろと問うようなことが言われていると思うんですけれども、英語の4技能を大学入試に入れるということは、非常に私は将来的にメリットがあるというふうに考えているんですが、とんでもない外れたことを言うかもしれませんけれども、前回私は欠席させていただいたんですが、受験料の経済的困難な対象者をどういうふうにするかとかいろいろとあるんですけれども、大学としては受験料もしっかりと頂かなければなりませんし、入学金、授業料も一度はちゃんと頂いて、それから就学、家計の困難な学生に大学から支給するという、そういうふうな手順を踏まなければならないと考えております。

家計の困難な学生にどうするかという説明会も前日あって、私どもの教職員も出席しまして、文科省の方から学則にそれなりのことを入れなければならないということをお話されたということで、文科省に、それは大学としては学則に入れることはできないということをお話ししましたら、それなら内規を作ればいいのか、はっきりとしたお答えは頂けなかったんですけれども、デメリットが相当私はまだまだ多いと思うんです。

受験料が高い、家計の困難な学生ではなくて、一般の生徒も受けるわけです。そういう子たちにどういう手当てをするかとか、現場の高校の教員が、私のところも私立の高校、併設高校としてあるんですけども、それほど偏差値が高くない、公表されていますから高くないと言える高校なんですけれども、教員がよくよく内容を理解していない、理解できていない。説明会をいろいろと開いてくださっても、実際に自分が試験問題をやってみないことには分からない。そういう状況の中で、生徒が何が合うのか、どういう業者の試験が合っているのか、そういうこともなかなか把握できない。いろんなデータの情報を頂いたとしても分からない。そういう状況の中で、学習指導要領も改訂になって、それに伴って、それと並行して、英語の4技能も大学入試改革ということで入れるということはよく分かりますけれども、もう少し現場、学習指導要領の改訂がどのように生徒に波及していくのか、そういうこともいろいろ考えた場合に、まだまだ時間が必要ではないかなというのが私の意見です。

来年からもう始まるということを前提として、受験要領がいろいろとこのワーキンググループで話されているわけなんですけれども、そもそも、もう少し高校の現場も考えてあげる、保護者のことも考えてあげる、お金のことも考えてあげなければならない、いろんな問題も、いろいろと包括的に考えていく必要があるのではないかなと思います。

ちょっと外れた意見かもしれませんが、船に乗って何なのこれかと思いつつやってきた私としては、やはり、もう少しかみ砕いて、いろいろと周りの方々が理解できるような内容で進めていただきたいというのが希望です。

【山口座長】 どうもありがとうございました。川上委員、どうぞ。

【川上委員】 データの件というか、調査の件で少し御質問なんですけれども、高校1年生というのは正論なんですけど、多分、それは文科省もよく分かっていて、当然3年後なのでいろんな意味で状況は変わっていますから、自分の進路をその時点で定めるのは相当難しいですね。ですから、そのデータの信憑性がどれくらいあるのかというところが非常に心配をしています。

実際、今、大学自体の志願者状況を見ていると、一般入試よりか、いわゆる、指定とか推薦の方がどんどん増えてきているんです。これは多分、いろんな大学がその傾向にあると思います。国立大学はたしか2021年に英語入試等の方の割合を3割にするとか、かなり大学自体が入試の区分を変えてきているので、多分そのあたりを、少なくとも1年生は判断できないで選ぶということになりますから、そのデータの信憑性、これは前も申し上げたん

ですけど、非常に心配があるところがあります。

特に今回、学力の三要素が変わって、これを正確に議論するということになると、大学はそうすると、やっぱり、一般入試の枠を減らしても、そっちの方向にある程度増やしていかなければいけないと。これは見る上でですね、当然、主体性とかそういったところの評価は一般入試ではなかなか測れませんので、多分、多くの大学がそういった方向にシフトしていきますので、受験するのがかなり前倒しになるのかなとは思っています。多分、そのあたりの状況は1年生ではなかなか判断できないので、ちょっとそこが心配だということです。

多分、文科省の方で、各高校だったり、あるいは大学だったりのそういう出願状況だったり、あるいはどういう入試区分ごとに学生が入ってきているかというデータをもしお持ちであるならば、例えば、そういったところのシミュレーションと掛け合わせて方向性を見ていかないと、かなり見誤るんじゃないかと、これを非常に心配しております。

ですから、このデータだけに頼るのではなくて、もうちょっとほかのデータと多面的に評価していただいて、なるべく精度を上げていただきたいと、これは要望でございます。

**【三浦大学振興課長】** 試験区分ごとの設置者別、一般入試でどれくらい入っているかというデータは、全体としては持つてはおりますけれども、それが実際、月別、何月に例えばやっているかというようなことまでは、推薦入試一つとっても、センター試験を課す場合とか、課さない場合とかもございまして、どこまで精緻なものとなるかというのは難しいとは思っています。ただ、御指摘はごもっともだと思いますので、様々、こういったデータを、例えばアンケートに付ける、あるいは団体側に提供することによってというのは、またそれは難しいような気もするんですが。ただ、1回目のデータも、きょう結果もお付けしておりますが、多分、推薦入学に使うことも想定したのかなと思って、6月ぐらいに大きな山があるというのは、実はちょっと意外ではあったんですが。やはり、さっきも申し上げたとおり、そうは言っても、無理は承知でお願いをした前回の調査でございますので、是非、精度を上げる工夫というのをちょっとまた教えていただきながらやりたいと思います。

**【山口座長】** ほかに何か御意見、御指摘等ございますでしょうか。どうぞ、萩原委員。

**【萩原委員】** 前回の調査で、私ども、各実施団体の受け入れ可能人数は別に知りたいわけではない、高校の方は。それよりは、希望した数で受け入れが可能かどうかということが知りたいということなんです。ですから、出た数に対して、そうすると、高校の方は

どここの団体に幾つというのは回答した数で分かっているわけですから、その団体が受けられますよと言ってくれれば、その出した数の子たちはそこで受け入れてもらえるというふうな形で安心できるということなんです。ここの数が幾つと言われても、それは高校の方は全然意味ない。逆に7事業者皆さんが、全て受け入れができますと言っていただければ、高校の方は安心して、その先に進めるということなんです。ですから、再度取り直しをしていくということであればそれも分からなくはないんですけど。

ただし、これで7月になってとかというと、学校がまた夏休みに入ってきたりということがあって、調査するのが、今度、出す時期が遅ければ、学校は実態として生徒に調査しようといってもできない。そうすると9月以降じゃないと確認できないとなれば、10月になって提出となりどんどん遅くなってくる。

ですから、本当にこれが2回目の調査、もう1回やることに意味があるのかどうか。私は、先ほどの第1回目のところの数で各団体ができますよと言っていただければ、それで終わり。ただ、各団体ではもう少し細かい数字が欲しいということであるならば、それは改めてとって、別に遅くてもそれはそれで動けるんだろうと思うんですが、いかがでしょうか。

【三浦大学振興課長】 まさに御議論いただきたい点がそこなんですけれども、前回の調査は調査期間を夏休みをまたいでかなり長い期間で、ただ、さっき概略としては御紹介しましたけど、結構細かいデータをとっていて、それを団体ごとに全てそのデータを当該団体にお渡しをしていますので把握はしている。けども、先ほどありましたとおり、信憑性がどうなんだという部分もあろうかと思えますし、働き方改革もありますし、どうしたものかなということではあるんですが。

【萩原委員】 多分、信憑性に関しては、2回目の調査をやっても正確な数は絶対出るはずはないと思っています。というのは、やっぱり、そのときそのときの受験の、また細かい情報は、それはある一定数動きが出るのは当然でしょう。実際にふたを開けたらかなり増えてしまったという問題が起こるかもしれないですし、意外と申込みがそのときに出た数よりも大幅に減るという可能性もあるかもしれない。少なくともそのところでどうだったのかと言っていただけると、高校の方は、出した方としては、ですから、うちの学校としては何と何をこの時期に使うと出したら、その数は何とかなりそうなんだねという確認ができるかどうかというところだと思っています。

【山口座長】 前回のデータを個別に受け取られた各テストの方から何か感じていること、言っておきたいことございませんか。例えば、英検の場合だと、前回のデータだと、

「英検」としか出ていない可能性はあると思うんですけど、今回、例えば、こうやって、試験の種類種別ごとにデータをとるということをやって意味はありますか。

【塩崎委員】 我々が団体として高校生に直接お伺いするようなことを考えているかどうかという。

【山口座長】 いえ、そうではなくて、今回の調査をもしやるとして、もう少し細かく聞くことに意味はありますか。

【塩崎委員】 先ほど萩原先生、あるいは川上先生おっしゃっていましたデータ、非常に悩ましいところですね。早く調査をしようとする、今、起案いただいているようにシンプルに聞くのが一番ベストかと思います。

ただ、シンプルに聞いてしまいますといろいろなバリエーションとありますが、ものが入ってきて正確なものがなかなかとれなくなるというジレンマがあるかとは思いますが、調査をしていただければ参考にはなるかと思います。

先ほど、平方先生、萩原先生から前回調査のことについてコメントもございましたが、6月多かった理由として我々が少し考えているのは、従来型の英検が6月にやっていて、今現在も大学さんに最も入試として使っていただいている試験ですし、先ほど奥先生おっしゃっていただいたとおり、実際に先生が受けたことがあってどんな試験か分かっている試験なので、それを書いた方というのが多いんじゃないかなと思っています。残念ながら落ちてしまったのでちょっと厳しいんですが。そういったことで言うと、前回の調査はもちろん参考にはさせていただいておりますが、それを見積もる上では結構厳しいかなというふうには考えているところであります。

あとは、たしかその時期は大学さんもどういうふうにするかというのが明示されていなかったもので、それも高校さんの判断に大きく影響したのかなと思っております。

【山口座長】 何かありますか。

【込山委員】 GTECからの見解なんですけれども、先ほど先生おっしゃったように、今回シンプルに、数字を月ごとにとる、今回は我々の場合は既に5月に、実施日に日付ベースで公表しておりますので、その部分で今まさに先ほど申し上げたとおり調査で取っているわけなんですけれども、昨年度のデータも弊社も6月と9月、そして12月が検定でありましたので、そのイメージで先生方が昨年はお答えになられている部分もありましたので、今回、既に我々動いているという状態なんですけれども。

この文科省さんの方で秋口にされる調査に関しては、恐らくセンター試験への連携のA

期間ですとか、B期間といったところがまさに総合で使うのかとか、推薦・A0で使うのかというところになりますので、各実施団体、我々も含めてですけれども、その実施日で受けたデータがどの期間で使えるものなのかというところをしっかりと学校現場に周知をしながらとるというところが、正確な数字をとるところに資するものになるかなと思っておりますので、そこを我々としても注意深く考えたいなと思っております。

【山口座長】 ありがとうございます。これは、以上を踏まえて少し慎重に……。

【石崎委員】 1つ言い忘れたんですけど、前は、いわゆる浪人というか、浪人している受験生のことは配慮されていなかったと思うんですけども、その分についてはどういうふう考えられているのかということをお伺いしたいなと思っております。浪人生と現役生と、その受験する月に傾向の差があるのかというようなこと、例えば浪人生は推薦で受験する人は少ないでしょうから、多分傾向は違うと思うんですよね。そういったことも含めて、やっぱり前回のデータで取り切れてない部分もあるのかなというふうにも思うんですが、それを言い忘れたので。

【山口座長】 浪人生についての見解。

【三浦大学振興課長】 ちょっととりようがないものですから、もし何か御示唆いただければと思います。

【山口座長】 いかがでしょうか。基本的な一つの提案をさせていただいてはいますが、この方向でどうやるのが一番効果的なのか、先ほど石崎委員からも出ましたけれども、これは受ける受験生にとって意味のある仕方で、どれだけのことができるかという立場で少しこれからやるとして、どういう形が一番望ましいかというところで検討していただければと思うんですが、どうでしょうか。

【萩原委員】 取り直しをしていただくのは、検査の各団体の中身が実は決まってないというか、まだ、一度も見たことないものがあるというのが実態だと思うんです。ですから、これが秋口以降から初めて実施しますという団体が、実は入っていますよね。それを踏まえて、じゃあ数と言われても、中身を見ないうちにそれを選ぶかどうかというのは、実は全く分からない。

今回も、前回のところでもその何種類か検定のところでも出されているかと思うんですけど、具体的に、各社の方でこういう形で、もう少し出てきてこういうやり方でやるんですとかというのが見えない限り子供たちは——ですから、先ほどちょっと英検さんがお話になりましたけど、従来型の英検というイメージで答えたんじゃないか。でも、実際にそれ

は認められなかったと英検さんが言われましたけど、ということは、英検がどういう形で変わるのかというのは誰も見たことがなければ、検査会場を、今いろんなところに会場を作ってやられますということだけは分かっていますけど、そうするとやっぱり生徒の方はなかなか選びにくい。そうすると、また、正確な数で、秋口以降やってみたら、これならいいやというふうになって、じゃあととなると、実際にふたを開けたときは、次年度そっちへまた流れるかもしれない。もしとるんであればきちっと流していただかないと、要は分からないところでいくらやっても、なかなか数が定まらないという状況かと思います。

【羽田委員】 前回の調査よりも様々な条件が出てきていますので、信憑性という点では多少上がるんだと思うんですけど、今、萩原委員が言われたように、それでもやはり生徒たちはその場になってみないと分からないみたいなところを要素としてはかなり含んでいるので、ポイントとしては、その先ほどもありましたけど、実際、受験生がどこかに固まって応募してもそれに対応できるかどうかというところが確保できれば、あえて調査をしなくてもというか、やっぱり大変ですので、できるならよろしいんじゃないか、やらなくてもいいんじゃないかなというふうに思います。

心配なのは、9か月の中で3回ないし4回しかないというその設定の中で、最後に固まっちゃたら本当に大丈夫なんだろうかというのは思っています。いろんな部活動の競技とかコンクールとかも、やっぱり時期的に見れば6月、7月あたりは多いですから、そうすると当然秋の方に行きますので、秋に1回ないし2回というと、全国で地域的にも偏りがあるでしょうから、そういうものに本当に対応できるだろうかというところが心配なところで、それは調査をやっても恐らく払拭できないんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

【三浦大学振興課長】 それを、ニーズがこれだけあるので、是非団体委員の側では、その受験できないということがないようにしていただきたいという趣旨で1回目の調査をやっています。さっき申し上げたように無理を承知で高校1年生の段階でやったと。でも、その後やっても余り意味がないと言われてしまうと、ちょっと、どうしましょう。その要望というのは、去年のデータをもって高等学校からの要望は一応出したと。それに一義的には応えていただける。例えば、一応センターの要件としては、基本、全都道府県ですけれども、当面の間は最低10か所でいいと。実際として、1人しか受験生がいないのにその都道府県でやってくださいということは、多分現実的に難しいだろうというお話は前からさせていただいています、割とそういう細かいところは別として、固まりとしてあればそ

れに応える、昨年の調査で、各団体側としては受けとめているのだということであれば、もう必要ないということですかね。

【前田委員】 多分、高校側の観点と、我々、実施主体、団体側の観点は違うと思いますけども、僕個人の意見になるのかもしれないんですけど、やはりあった方がいいと思っています。というのは比較ができる、そのあくまでも数字の指標ではあるんだけど、動き、県を含めたそういったものの増減であるとか、そういった動きというのは、指標としては非常に参考にはなるので、やっていただきたいと思っています。

【三浦大学振興課長】 もちろん、あった方がいいのは間違いないと思うんですけど。

【山口座長】 ほかに御意見ございますか。

例えば、先ほどお話ありました、今本当に受験生レベルでも先生方のレベルでも、やはり情報が浸透していないというお話があったと思うんですけども、例えばこの調査をやったり事前に、去年から状況が変わっている部分、提供サイドからの情報もかなり精緻になってきたと。それを改めてお知らせするという役割は結構外せるのかなということは、私自身は今、きょうの話聞いていて感じます。

その方向で基本的にこれが、先ほども出ましたけれども、やはり受験生にとって益がある調査を作るんだという方向で、一応御検討いただくということにしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

【羽田委員】 基本的にはそれで賛成したいと思うんです。私も先ほどいろんな資料を簡潔にまとめていただいてというのは、まさにそういうところがあって、今まで教育委員会も現場も、きちっと整理された形の情報というのはまだ届いてない状況が多くありますので、こういった機会ですらそういった情報が頂けるといのは、周知の部分では意味があると思っています。

ただ、このデータ自体の信頼性、信憑性という点では、やはり先ほど申し上げたようにいろんな条件が今後もあるだろうなと思っています。

何度も繰り返して申し訳ないんですが、最後の方ですらやっぱり受験会場が確保できません、いっぱいになって受験できませんというのは避けなければいけない事態ですので、それが現段階では各実施団体に任されているというところが、我々の方から見ると非常に不安な要素の一つであると思っています。

最終的に、例えばGTECさんとかを受験される高校生は多いと思うんですけど、それがGTECだけに任せていて、GTECが対応するという構図になっているというのがちょっと心配なの

で、最悪どうなるか分かりませんが、いろんなトラブルの発生が予測されるときに、文科省の方できちっとバックアップして試験ができるような体制を整えるみたいな、そういう形が伝わってくれば安心できるのかなと思います。

【山口座長】 ほかに、この際、御意見、出しておきたいことはございませんか。

【三浦大学振興課長】 今のお話ですけど、文科省がバックアップして試験を実施することは現実的にはできませんので、そのためにも、きちんと準備をしていただくような方策の1つとして、こういう調査はいかがかということで御提案をさせていただいているものでございます。

もちろん、一番最初の議題にも関わりますけれども、申し込んだだけでも受けられなかった以外に、申し込んだ後にまた何か起こったというときの対応というのは、それはもちろん我々文科省が中心になって対応策を考えなくちゃいけないですし、今度は大学側ともよく御相談、御協力いただかなくちゃいけないと思っていますし、責任をもって対応するというのもう間違いありません。ただ、試験を我々がやるわけにはいきませんので、その対応は万全を期したいと思っています。

実施についてはまた個別に、やっていただく方の理解がないことにはどうにもなりませんので、個別にまた御相談をさせていただきたいと思います。

【山口座長】 それでは、文部科学省におかれまして、本日いろいろ出していただいた御質問や御意見も踏まえて、引き継ぎ検討準備、調整などの御相談も進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

それでは、次に3つ目の議題に移ります。

2021年度入学者選抜に向けた各大学の検討状況結果及び国立大学における英語資格検定試験の活用見込みについて、議題としたいと思います。

事務局から資料の説明をお願いします。

【竹花大学入試室長補佐】 それでは、資料の3-1、3-2、3-3をごらんください。まず3-2から御説明させていただきます。

こちらが、文部科学省の方でコンサル会社に委託して、まさにこれから始まる共通テストに関して、それから英語の4技能評価資格検定試験の活用に関して等々、大学でどのように活用するのか、しないのかといった点も含めて、大学院大学を除く全国の大学にアンケート調査をしたところでございます。

今申し上げましたようにもろもろの内容を含んでおりますが、こちらは英語のワーキン

グでございますので、英語の活用に関する集計結果について御紹介をさせていただきたいと思っております。

資料3-2の5ページ目をごらんください。

これはあくまでも基本的には今年の1月時点の集計結果ですので、その後、進展があるかもしれませんということも御留意いただければと思います。

5ページ目でございますけれども、左下のグラフでございますように、英語資格・検定試験の利用につきましては、4割強が利用するというふうに回答を頂いています。また、まだ決まっていないというのが5割弱となっておりました。

右側の棒グラフを見ていただければと思いますが、国・公・私別、大学・短大別の内訳を見ると、国立大学では9割以上、公立大学で8割以上が利用するというふうに回答がございました。

続きまして、6ページ目でございます。今度は英語資格・検定試験の活用方法についてでございます。

活用方法につきましては、左下のグラフを見ていただければお分かりのように、やはり出願資格、加点といったような割合が、特に国立大学で多かったという結果となっております。

また、7ページ目でございますように、特に出願資格として活用する大学において、CEFRの対照表に基づいたレベルでございますが、こちらはA2以上というのが6割以上であったといった結果となっております。

それから、資料3-3につきましては国立大学、これは前回のワーキングでも御説明したとおりでございますが、その後少し内容を改変しつつ、後ろの方に付いておりますA3の資料、これは大学によっては幾つかの活用方法の欄で重複して載っている大学もあるということで、ちょっと分かりにくいという御指摘もありましたので、大学ごとにどういう活用方法があるのかというのを分かりやすくした資料を付けて、これも先ほどの資料3-2と併せて5月31日に公表をしたところでございます。

こういった形で、文部科学省といたしましても、各大学、あるいは高校、受験生になるべく新しい情報が伝わるように努力をしているところでございますが、資料3-1をごらんいただければと思いますけれども、大学の方でも活用方法についてはなるべく早く、まだ決まっていないと回答しているところが5割と、結構多い状況でございましたので、こういった点についても早めに活用の有無や活用方法について周知いただくように事務連絡を6月3

日付でお配りしているところでございます。

引き続き、文部科学省としても情報を適宜速やかに提供したいと思ひますし、大学にも活用方法等の公表を要請していきたいというふうを考えてございます。

説明は以上でございます。

【山口座長】 ありがとうございます。

ただいま説明がありました内容につきまして何か御質問等ございましたら、どなたからでも結構ですので、御発言をお願いいたします。

活用状況について、まだ決まっていない率が大学全体については高いんですが、私立大学はどういうふうに。

【安井座長代理】 私立大学協会ですが、基本的には私立には多様な入試がアドミッションポリシーに合わせてありますので、どういふ入試にどこを使うかということについての細かいところはまだ検討中というところだと思いますが、基本は大学入試で英語に関しては4技能を各大学で作るといふことは不可能でありますので、そこは、英語4技能については、これを利用する方向しかないという方向だと思いますが、個別の大学について全部実態調査をしたわけではありませぬので、方向性しかお話しできません。

【沖委員】 私立大学連盟の方では内部で調査をしまして、どのくらい出ているか、公表されているかということについてまず内部で調査をしまして、その上で、6月の上旬ですけれども、早めに情報を公開するようにと、それはまさに高校の先生方皆さんに、非常に遅れている、影響を与えていることを我々としても認識しているんで、今後も継続的に早めに出していくということを考えております。

ただ、問題なのは、やはり4技能をこの仕組みの中で使うのか、あるいはそれ以外として使っていくのかということについても意見がいろいろあるので、その点も含めて、多様なところで引き続き内部でも検討し、できるだけ速やかに、使い方ありますとか、あるいはどのような活用について周知できるようにしたいというふうに思っております。

以上です。

【山口座長】 ありがとうございます。

【青山委員】 前回は御質問させていただいたかもしれないんですが、こちらにあるCEFR A2以上、A1以上、こちらは要するに大学入試英語成績提供システム参加要件が認められている試験は、全て有効というふうに考えてもよろしいんでしょうか。

変な質問ですか。要するに、その要件を満たしている、今出席している団体の試験は全てアクセプトとされるのかということです。そう考えてもよろしいのでしょうか。

前回ちょっと御質問しましたところ、全てではないですというお答えだったかと思うんですけども、ただ、その内訳に関しては、前は公表されていなかったんですが、公表していただけるのであれば非常に助かるんですけども。

【竹花大学入試室長補佐】 この内訳というのは、大学名ということではなくて。

【青山委員】 そうなりますかね。例えばこちらに出願資格として活用、CEFR A2以上と書いてあるんですが、これは平たく言えばGTECさんのA2以上も、ケンブリッジ英語検定のA2 Key以上も認められるのかということです。

【竹花大学入試室長補佐】 すみません、今データを持ち合わせていないんですけども、全ての資格検定試験を活用するかどうかという内訳についても——申し忘れましたけども、これは調査の中の一部の抜粋でございまして、ホームページの方に全体版が載っているんですけど、そこに全ての試験を活用するかどうか、そうではないかという割合も、ただ大学の内訳までは示していませんけども、そこまでは分かるようになっております。逆に言うと、それ以上は分からないという状況でございます。

【萩原委員】 実は今の部分が、高校の現場も非常に重要な部分でして、要ほどの検定がだめだと言われちゃったときに、同じA2であってもその限定がかかっているか、かかってないかということは非常にその各大学……、先ほど沖委員からあった私学さんがというところが非常に、ですから、それが具体的に出てこない、そうすると子供たちが併願を考えたときに、ある検定じゃないとだめと言われたときには、その検定で国公立の方も、例えばA2であるとかB1という形にしていかなざるを得なくなってくる。

それから、実際には今度の新しいテストで志望校を変えるとなったときに、実はこの検定じゃないと出願もできないということが起こり得るかもしれないので、その情報は是非とも上げていただきたい。そういう大学があるということはありますと言われただけでは、ちょっと情報としては足りないということだと認識しております。

【山口座長】 文科省で把握している、実際、対象試験を限定しているような大学ってあるんですか。私が認識している限り、例えば国立大学内でそういう指定を行っているところは、私、認識しないんですけども。

【竹花大学入試室長補佐】 国立大学は、基本的に国大協の基本方針というかガイドラインで全ての資格検定試験を使うというのが原則になっていますので、私が知る限り、利

用するところは全て活用するという方向で検討されていると認識しています。

正直、公私立の方まではまだ把握していないんですけども、また、その国立大学だけの情報というわけにもいかないと思いますので、今後そういう情報が出そろってくるのを見つつ、本日のお示しした国立のように細かいところまで国公立全てをとというわけにはいかないと思っていますが、文部科学省の方で、例えば各大学のその予告のリンク集みたいなものを作成して文科省のホームページに掲載するなどの情報提供の仕方というのを今後また検討していきたいと思っていますので、また大学の方にいろいろ御協力もお願いすると思いますけども、よろしくお願ひいたします。

【山口座長】       どうぞ。

【青山委員】       私がこだわったのは、実際に東大を狙うような高校様の方からA2以上になったと聞きました。なので、ケンブリッジ英語検定は使えないんですよということで、使うのをやめたというケースが昨今報告されてきて、それは要するに、今おっしゃったように、国立であれば、原則、全て使えますという書き方をしてくださらないと、やっぱり高校の先生も高校生も分からないといったよい事例だと思うんです。それこそ世界に通用するA2以上ですので、これが使えないという理解をされると非常にせつかくこういう場に出させていただいておりますので、非常に残念だなと思ひまして、これ以上の誤解を生まないようにそのあたり、出されるときには表現を工夫していただければ非常にありがたいと思います。

【山口座長】       例えば私立の場合には、多分協会の方でも把握はされていないでしょうし、集計もされていないと思いますけれども、やはり文部科学省が把握できる範囲、国公立ならば少なくともこうなっていますという情報は出していただく必要があるのかもしれないですね。

【安井座長代理】   もともとこの委員会も長くやっていますが、基本的には、全ての民間試験をみんなで利用しましょうという合意の下に出来上がってきているシステムだと思いますので、それをチョイスするという考え方は、多分、私立大学の中でも余りないんじゃないかと。基本的にはもう随分長いことディスカッションしている中でそういう風土が出来上がっていると私は理解しています。

【山口座長】       今の大学の利用状況についてはこれでよろしいでしょうか。次に移りたいと思いますが。

それでは次に、2020年度における各試験の実施スケジュール等の公表状況について、文

部科学省で取りまとめた資料について共有したいと思います。各実施団体からスケジュールの公表状況等について説明をお願いします。資料4について、それぞれの実施団体から、この順序でお伺いしていきたいと思います。

まず、英検さんからお願いします。

**【塩崎委員】** ありがとうございます。こちら、英検の各方式につきまして書かせていただいております。英検CBTとS-CBT、こちらはプレスリリースさせていただいたとおり、なるべく回数多く実施するという方向で準備を進めております。高校会場は使用せずテストセンターを設置して、これを全国に展開させていただくというところでございます。

もう少し具体的な情報をなるべく早くというのが本ワーキンググループでの総意かと思っておりますので、できるだけ早く全ての方式、あるいはより詳細な実施スケジュールなどについてお出しできればというふうに考えております。

以上です。

**【山口座長】** ありがとうございました。続いてGTEC、お願いします。

**【込山委員】** GTECは下から2段目、最後の段落になりますけれども、まず、GTECのAdvance／Basic／Coreタイプに関しましては、ここに書かせていただいておりますとおり、第1回を6月14日、第2回を7月19日、第3回を10月4日、第4回を11月1日、全て日曜日ということで、2020年度の4回は確定をしております。ただ、この各タイプでの試験日程については、今年の秋頃公表予定とさせていただいております。

会場については、全国47都道府県の公開会場、ここは条件が見合えば高等学校の会場も含むという形で今実施を考えております。既に全国、離島・僻地も含めて5月には高等学校を対象に説明会を開いております、現段階の候補地としてお示ししております。その示しているエリアに関しても、今我々の方で進めさせていただいております意向調査の結果に基づいて、そこのエリアになかったとしても、希望が多ければ新設、又はエリアとして考えていたとしても、受験者が少なければ、希望がなければそのエリアの実施は見送るという形で、今、精緻化を進めているところでございます。

また、GTECのCBTに関しましては、先ほど申し上げたとおり2019年の秋頃にまた随時公表してまいりますので、そのときに併せて日程をお伝えしていきたいと思っております。

GTECからは以上になります。

**【山口座長】** それでは続きまして、次のページに行きまして、IELTS (British Council) からお願いします。

【安田委員】 こちらの日程なんですけども、世界的にIELTSが決めている試験日の中から可能な限り日にちを挙げております。11月、12月なんですけども、こちらの最後のテスト日程に関しましては、希望者の数などを配慮しながら決定していきたいと思っています。

試験会場なんですけども、現在のところ高校の使用に関してまだ合意が得られてないところもあると思いますので、その辺のことを今後の意見など、学校側の御意見などを聞きながらやっていきたいと思うんですけども、基本的には既に私どもで持っている試験会場などを利用して試験をやっていく予定でございます。

以上です。

【山口座長】 ありがとうございます。次、IELTS Australia。

【前田委員】 今、British Councilの安田委員からお話があったように、日程に関しては全く同じです。11月以降、11月、12月も試験は行うんですけども、年内に確実に結果を受け取るということを前提にということでラインを引かしてもらっているんですが、実際、実施は行います。

以上です。

【山口座長】 ありがとうございます。続いて、TEAPについてお願いします。

【塩崎委員】 TEAPについて御説明させていただきたいと思います。

TEAPとTEAP CBT、併せて御説明させていただきますが、4月から12月の間に過去の実施日実績をベースに3回実施を予定させていただきたいと思っております。

こちら、試験会場、今年実施する予定のものをベースに随時拡大をしていく予定でございます。TEAP CBTも同じように年3回、それから、実施都道府県も今年のをベースに拡大をしていく予定でございます。こちらについても、なるべく早く来年度の実施日を公開したいと考えているところでございます。

以上です。

【山口座長】 ありがとうございます。続きまして、TOEFL iBT、お願いします。

【根本委員】 TOEFL iBTですけれども、そちらに記載しておりますが、4月～11月で28回ということですが、私どもとしては、最低でも28回ということ考えておまして、毎年33回から、多くて35回設定できることが多くありますので、発表され次第、また皆様に御通知をしていくという形になるかと思えます。

地域ですけれども、そちらにも記載しておりますけれども、受験者の動向と、それから既存のテストセンターの状態を見ながら、テストセンターの増設というのは引き続きETS

と話し合っていくという形で考えております。

以上です。

【山口座長】 ありがとうございます。それでは、ケンブリッジ英語検定、お願いします。

【青山委員】 こちらに日程の方を示させていただいておりますが、これは全てではありません。7月22日のウェブサイト、大学入試のためのウェブサイトを立ち上げる予定でして、そちらに照準を合わせて用意していたんですけれども、早く出した方がいいという状況でしたので、第一弾ということで出させていただいております。

調整している内容は、日曜日の受験日を増やそうということで、現段階でA2, B1, B2に関しては3日間、日曜日の受験日、例えば6月28日、8月30日、10月25日等々、今、増やすことができます。そして、あと三、四日、日曜日、あるいは8月中に増やそうということで、引き続き本部と協議をしている状況です。公開試験日程について、まず申し上げました。

これとは別に自校開催、私ども、試験監督もろもろをセットで派遣して実施いたします。その日程も年間決まっております、そちらの日程を右側に示させていただいております。このような形で、1人でもより多くのお希望者を取り込めるように、対応できるように、対応しようとしております。

以上です。

【山口座長】 ありがとうございます。

ただいま説明のございました内容につきまして御質問等ございましたら、どなたからでも結構ですので御発言をお願いします。

【石崎委員】 日程を、大分細かく決まったところはお示しいただいていると思うんですけれども、その日程に関連して、受験期間A, B, Cというんですか、要するに総合型選抜に間に合うための期間、それから、学校推薦選抜に間に合うための期間、最後の期間というような区分があると思うんですね。それが、それぞれどの日程がどれに属するのかというのは、実は受験生にとっては大変重要な情報でございまして、例に挙げて恐縮なんですけれども、例えばGTECさんで言うと、6月14日は受験期間Aで総合型選抜に間に合うんですけど、実は7月19日のは間に合うかどうか分からなくて、受験期間Bになりそうだななんていうお話をさっき伺ったところなんですけれども、そういった情報が、実は受験生にとってとても大事です、場合によっては、さっき、調査をするにしても重要な情報になると思

うんです。ですから、これをお示しになるときに、是非その日程が、その受験期間ABCのどれに含まれるのかというのを併せてお示しいただけると、受験生にとっては大変ありがたいかなというふうに思います。

【山口座長】 それは文科省において分かっている情報ですよ。

【三浦大学振興課長】 分かりやすいように。

【山口座長】 義本さん。

【義本委員】 後に触れさせていただきますけれども、5月30付で入試センターから各大学に対しまして、このシステムの利用につきまして通知を出させていただきました。その4ページ、5ページに、石崎議員がおっしゃったように各大学でどういうふうな形で利用するのか、どの試験の区分で使って、どの日にやるのかとか、あるいは成績の取り扱いについてしっかり募集要項等に明示していただきたいということをさせていただきましたので、そういう情報を併せた場で考えていただくということになるかと思えます。

【山口座長】 ほかに。萩原さん。

【萩原委員】 先ほどGTECさんから離島のお話が出てきたんですけれども、離島の生徒は高校2年生の段階で措置として受けることができるという話をされたかと思うんですけれども、ということは、そこで受けてしまう、2年生で離島措置として受けてしまえば、高校3年生では、離島の学校で受けることは多分できなくなるという形になるんですよ。

【竹花大学入試室長補佐】 もし、高2で離島で受けていたとしても、高3で受けていけないというルールにはなっておりません。

【萩原委員】 ということは、離島でB2が出ていたとしても、もう一回3年生になって2回受けることができると。

【竹花大学入試室長補佐】 そのとおりでございます。

【萩原委員】 では、受けなくても2年生のも使えるし、要は3年生になって受けて、それを使うこともできるという。

【竹花大学入試室長補佐】 そうですね。例外措置を使って高2で受けていればという。

【三浦大学振興課長】 例外措置を使ったら、3年の権利は放棄する形になります。

【萩原委員】 そうですよ。という話だったはずなので。そうすると例えば、離島でB2に受からなければ、それはということですよ。そうすると、場合によって離島の会場にしてやるとかやらないというのも、微妙にまた変わってくる可能性が各団体様であるということですよ。

【竹花大学入試室長補佐】 はい。

【萩原委員】 すみません、もう一つ。今、各団体様から日程とか会場等についてお話を頂いたんですけど、これは、大学入試センターに当初申請したものを、要するに全てこの中で満たす形で出てくるということなんでしょうか。例えばこういう部分で変更したいんだけどもとかいうものについては認めないという考え方なんでしょうか。

【三浦大学振興課長】 基本的には要件をクリアしたもの、センターにおいて要件を確認したものの試験をどういうふうに、いつどの会場でやるかという話を整理していただいているということです。

【萩原委員】 ということは、要件で出したものについては、全てきちっと実施をするということだということですよ。

【三浦大学振興課長】 もちろんです。

【萩原委員】 ですから、それを満たさないというか、あと、新たにもう少し、例えばC1のレベルとかB2のレベルを、当初入ってなかったけれども、それを実施するというのも認めないということですよ。

【三浦大学振興課長】 そういうことも含めて、センターの要件の確認をしていますので、少なくとも2020年度の実施についてはこれで、2021年度以降、また新たな試験が入ってくるということを妨げるものでありませんけれども、この段階においては、確認をされたものについてどういうふうに実施していくかということ今御説明させていただいたということです。

【義本委員】 三浦課長がおっしゃったとおりなんですけれども、フォーマリティーから申し上げますと昨年の3月にしましたのは参加要件を確認させていただいたということです。基本的にはその内容においてやるということを前提にしてセンターの方でシステム運営委員会という専門家の会合に諮った上で確認させていただきましたということです。

フォーマリティーから言えば、さらにそれぞれの団体ごとに協定を結ぶという手続をし、それを調整する作業がありますので、それが確定した上で正式に2020年度の試験が確定して、それで使うということが決まってくるということでございます。

それから、基本的にはそこでお示しいただいたものをベースにしてありますけれども、重大な変更があれば、これは原則としては、これもセンターの方でお示しさせていただいておりますけれども、2年前の6月末までに出していただいて、そこで諮ってやりますので、

先ほど三浦課長が申し上げましたが、基本的には2020年度の最初の試験のときについては今のベースで考えていくということになります。

【山口座長】 ほかに何か。

【平方委員】 細かいことになってしまうかもしれませんが、今の話ですと参加要件をきちっとクリアしてなければだめということですよ、簡単に言えば。参加要件が全部頭の中に入っていないから申し訳ないんですけど、少なくとも4月から12月の間に、受験生の方は受けられるというふうに思ったような参加要件になっていたと思います。

【義本委員】 基本的には、先ほど申しましたが、参加要件はしっかり確認させていただいてますので、それを前提にして各団体の方においてはスケジュールですとかいろんな取組というのを考えていただいていますので、そういうことかと思っています。

【平方委員】 ということは、ここに今、具体的に言いますと、12月の日にちって全然出てないですよ。でも、12月には受けられると理解して参加要件として認めたという記憶があるんですけど、間違っていたら申し訳ないです。だから、参加要件を外れていたなら、それはだめということですよ。

【義本委員】 日の確定については、これは別途考えないといけない話ですけども、基本的には4月から12月にベースとして試験を用意いただくということでしています。

ただ、具体的には一般入試に使うとなりますと、いろんな手続とか時間が掛かりますので、その具体の日の調整については、それぞれ考えていくという整理だと思います。

【平方委員】 この会議の場所ではないと思いますが、かなりそこは厳密に議論して了解したと思うんです。ですから、そのあたり、全部今記憶の中に入らないので申し訳ないんですけど、もし違っていたら、別の会議で発言したいと思います。

【山口座長】 基本的に参加要件、実施要件については、全てセンターに置かれていまず運営委員会ないし幾つかの委員会が置かれて実施されておりますので、そこにお任せしているというのが実態かと思っています。この会議はそれを確認する会議ではないです。

【義本委員】 ちょっと補足させていただきますと、参加要件にはこう書いておりました前年度、4月から12月までの間に複数回の試験を実施すること、当該数回の試験を原則として毎年度全都道府県で実施するというようになっておりますので、必ずしも12月にラストでやらなくちゃいけないという形の要件の確認はしておりません。

ただ、基本的な受験生を考えた上で便宜を図ってやるということで、極力それぞれ団体の御判断で調整をいただいているという理解だと思います。

【平方委員】 すみません、その議事録はちゃんとありますか。

【義本委員】 議事録というか、今、要件の説明をさせていただきました。

【平方委員】 今のは重要な議論をした記憶があるんですよ。この場じゃないからもういいですけど、12月に試験をやらなくていいという議論はなかったと思います。

【山口座長】 それはセンターの場で御議論いただきたいと思います。

【義本委員】 今、資料を持ち合わせておりませんが、基本的には今申し上げた参加要件の下に確認したということでございます。

【平方委員】 そうですね、はい。

【山口座長】 ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次にまいります。それでは次に、大学入試英語成績提供システム運営大綱が作成されたとのことですが、事務局から資料について説明をお願いします。

【竹花大学入試室長補佐】 それでは、時間も大分押してまいりましたので、大変恐縮ですが、資料5と資料6を併せて御説明をさせていただきます。

資料5につきましては、6月4日付局長通知ということで、関係の教育委員会ですとか都道府県、大学等に通知させていただいた、まさに大学入試英語成績提供システムの運営大綱ということで実施方針を確定した通知としてお知らせしたものでございます。

内容について、簡単に説明させていただきます。運営の趣旨については、これまで実施方針に沿った内容となっておりますので割愛させていただきます。

第2の参加する資格・検定試験につきましては、試験を実施する団体について大学入試センターが決定、公表することとなっております。

また、第3のシステムの利用についてでございますが、まず、この共通テストの利用の有無にかかわらず、成績提供システムが利用することができる旨をここに記載してございます。また、先ほどのケンブリッジの青山委員からも御指摘あったこととも関係しておりますけれども、入学志願者の受験機会、負担に配慮して、利用対象とする資格・検定試験は限定しないことが望ましいということで、ここでそういった旨の要請しているところでございます。

2ページ目、第4のシステムの利用に係る通知ということで、これはまさに令和3年度から新たにスタートする入試ですので、利用する場合には、大学等におかれましては令和2年2月29日までに文部科学省とセンターに通知していただくこととなっております。

また、資格・検定試験の実施時期につきましては、令和2年4月から12月までの期間で、

具体の実施日時については試験実施団体が別途公表することとし、センターのホームページから当該情報を閲覧できるようにすることとしております。

それから第7についてですが、このシステムの利用に関する手続の詳細等についても別途公表すると。成績提供に係る要項を定めてセンターが別途公表することとしてございます。

それから資料6につきましてですが、これまでも様々な情報が不足しているというお話もございましたが、今後、高校・大学関係者向け説明会ということで全国2ブロックの大学、地方公共団体の入試・教務事務担当教職員対象の会議ですとか、大学入試センター主催とはなりますが、高校関係者、それから大学関係者向けの全国7ブロック会議といったところ、さらにはその他にあるような、それぞれ各種説明会、今後入ってまいりますけども、こういうところで様々な情報を可能な限り周知を図ってまいりたいというふうに考えております。

説明は以上でございます。

**【山口座長】** ただいまの説明がありました内容につきまして御質問等がございましたら、どなたからでも結構ですので御発言をお願いいたします。

よろしいでしょうか。先ほど、青山さんがお尋ねになったことは、大綱として第3のところを確認をしていると。だから、利用する大学はこれを心得て利用してくださいということになっておりますので、御安心いただきたいと思います。よろしいですか。

それでは次に続きまして、大学入試センターより令和3年度大学入学者選抜に向けたスケジュール等について説明をお願いします。

**【義本委員】** 関係する資料は、資料6と資料7、それから参考資料6と参考資料7でございます。主に資料7をベースに御説明したいと存じます。

資料6は、先ほどお話ありましたように、今後、説明会を順次やっていくということで、先ほど申しましたように7月になりますと全国の7ブロックに分けて各高校関係者を対象にさせていただく。8月になりますと、これもセンターの主催でございますけども、大学に対しまして同じような形での説明をさせていただく予定でございます。

それから、先ほど話がございましたように、都道府県の方に周知ということもございませぬので、ここにごございますような指導主事の連絡協議会ですとか、全国の会合等にありませぬし、また、さらに初中局と連携させていただきまして、可能な限り、局長協議会ですとかいろいろな会合でその周知も図っていくということもさせていただきたいと存じます。

資料7をごらんいただきたいと思います。

基本的には、この7の1ページ目に入れていきますように、このスケジュールが今後始まり

ますけれども、共通IDの発効から、その通知をセンターから発送をさせていただく。それを高校で修正・変更いただくとか、さらにはそれを踏まえた上で高校生が共通IDを記入して実験していく。その上で大学に提供される成績の試験の確認、それから大学側からの要請に基づいて、成績をセンターから大学に送るといった流れがありますけれども、それぞれ実施団体もそうですけれども、高校側、IDの取りまとめですとか、それから高校生にも実際にやっていただく。それから先ほど申しましたように、大学のそれぞれの区分ごとにどれを使うのかということをはっきりとすることを明らかにすることもありますので、その段階に応じまして通知発出してやっていくということでございます。

2ページは、これもおさらいでございますけれども、ABCの区分ごとに9月、11月、それから一般試験の2月に、それぞれ3回に分けて提供させていただくものでございます。ポイントは、今後の資料の周知のポイントの2枚でございますけれども、一番最後にその周知の状況についての資料がありますので、最後の資料をごらんいただきたいと存じます。4月からこの6月にかけて、それぞれの通知を出させていただいております。4月24日は、これは高校向けに、参考資料6でございますけれども、通知をさせていただきまして、取りまとめの業務を頂きますので、その内容についての概略を高校側に周知させていただきました。

それから、5月30日は大学向けでございます。参考資料7でございますけれども、そのシステムの利用について、その内容とともに、先ほど申しましたように、この資料7の4ページにありますように、募集要項等においてそれぞれについて承知いただくということを明記させていただきまして、それを大学に求めさせていただくという内容でございます。

それから6月4日、これは先ほど入試室から御説明しました大綱でございます。

今後でございますけれども、7月に入りまして、できればこの発行の申し込みの案内ということ、受験生向け、高校向けに、これは大部でございますが、これも作らせていただいて、これをベースにして、それぞれ1月になって御説明させていただきたいと思っております。先ほどありましたように、1回の説明ではこれはなかなか周知できませんので、ホームページですとか、あるいはQ&Aを作るなどという工夫をさせていただいて考えないといけないと思っております。

それから、高校生に対してはこれだけでなく、例えばいろんな媒体を通じましての周知ということも並行して、今後、逐次実施することを検討しているところでございます。

それから、今資料はございませんけれども、先ほどの高校でやっていただきます共通IDの発行の取りまとめ等との業務についての詳しいものを取りまとめ要領という形で、この発

行案内とともにお出しさせていただいて、高校側での事務にさせていただこうという内容でございます。それを協議会でも説明させていただきましてホームページでも掲載し、9月からその配布を開始させていただきます。併せて、できればコールセンターを設けさせていただいて、いろんな問い合わせに対しても、高校側でいろんな御不明点があると思いますので、それについて周知させていただきたいと思っております。

それから8月になりまして、先ほど申しましたように確認しました各団体ごとに個別の協定を結ぶべく、今作業をさせていただきます。それを7月中に確定させていただいて、それを受けてシステム要項という形で大学・高校向けに今まで申し上げましたことの概略をまとめたものですか、それに使う団体の試験等についても明記してそれを出していただく、そういう手続を今図っていく予定でございます。

それから、それを踏まえた上でこのポンチ絵の資料の今回の周知のポイントということでございますが、高校側のポイントということで先ほど申しましたような申し込み案内とか取りまとめ要領に周知いたしますが、そこでの概略で話を書かせていただいたところでございます。赤字で書いていますように、在学する高校2年生についてIDの発行の申し込みを取りまとめていただくということでございます。集中申し込み期間を設けて、その後、逐次追加の申し込みを頂くということにしております。

それから、センターにから申し込んでいただいて共通IDを通知はがきという形で、各高校を通じまして在学者に対して配付する予定でございます。これが令和2年の1月の中旬ぐらいの発送を予定しております。

それに加えて、このはがきを基にさらに高校の方で登録内容の修正、あるいは変更、転入・転出・卒業時の対応ですとか、それから例外措置の必要な書類の取りまとめ等についての話も盛り込ませていただいております。いろんな作業がございますけれども、よりコンパクトにお伝えさせていただきたいと思っております。

これによりまして、高校では在学者がどの試験を受験したかということを確認できる話でございます。基本的には、これは高校2年、在学者でございますけれども、高校3年生も浪人した場合は、基本的には個人が入試センターに申し込まないといけない、高校は介しませんけれども、高校3年生につきましては、既に合否が決まって浪人するかどうか決定した以降、4月から始まる試験にはなかなか間に合わないケースもありますので、在学中に、令和元年に限りませけれども、3年生に対しての取りまとめできる形でIDの発行についても、時期を少しずらしませけれども、やるということでございます。これもしっかり書かせてい

ただいております。

それから、もう一枚でございますけれども、これは受験生向けのポイント、それから大学向けのポイントでございますけれども、この申し込み案内にも書かせておりますけれども、IDの取得、その次が一番大事でございますけれども、どの試験を決定するかに当たっては志望する大学の情報、この中にはいつまでにどの試験を大学のものとして利用するのか、成績の取り扱いということ明らかにしていただきますので、それを前提にしてお考えいただきました。また、今後それをどういう形で周知していくかについては、文科省と協議しながら考えていきたいと思っております。

それから、資格試験の実施スケジュールということで、これは各団体の方で骨を折っていただいておりますけど、その情報を併せて判断させていただいて、御助言頂くと。それから受験の申し込みに当たっては、共通IDの記入を必ず、自分の共通IDを記入してやっていただくということについての周知ということについて、ポイントをまとめて何をやらなくちゃいけないかについてはっきりさせていただいて、受験生にも周知させていただきたいと思っております。

大学については、先ほど申したとおりでございます。

こういうことを今後逐次やらしていただく予定でございますので、次回以降のワーキングまた御紹介したいと思います。

以上でございます。

**【山口座長】** ありがとうございます。

ただいま説明のありました内容につきまして御質問等ございましたら、どなたからでも結構でございますので御発言をお願いします。

**【萩原委員】** 今御説明いただいたような形でしっかりと周知を図っていただくということがまず一番重要なことだと思っております。大学入試センターと文科省を併せてということで、そこがきちっとできれば、まずシステムそのものとしてはという思いもありますけれども、あとは各実施団体がきちっとどういうふうな形で実施していくのかいろいろ運営上の問題とか、いろんな問題が出てくると思っております。ですので、その部分についてこの後一番大きな問題になるのではなかろうか、例えば、現在の大学入試の共通テストでも交通機関の乱れがあったときの対応とか、今後いろんなことが起こってくるだろうと思われま。

生徒の受験申し込みから当日の検査実施、事後処理までの運営面で本当に大丈夫なのか

心配の部分があります。

例えばトラブルが起きて受験生に多大なる影響が出たとき、これはうまくいかなかったから実施団体に責任があるんだという形で終わりにになってしまうのかどうかというのが非常に、受験生にとっては、その団体の検査を2回しか受けられないところで受けてそれが後になってうまくいかなかったと言われても、それによってその年の大学受験が、要するに応募の資格段階のところで取れなかったというようなことになったときにはもう検定試験の受験もできないという形になってくるといことが起こり得ますので、是非とも文科省としても、これは各団体、遺憾であると言って終わりにするということなく、次の年ももう実施はさせませんという形になるだけではなくて、何とか全体が、実施団体の方に対してもうまくできるような形での支援を是非ともお願いしたいと思っています。よろしくお願いいたします。

【山口座長】       どうぞ。

【高谷情報教育・外国語教育課長】       すみません、初中局の立場からお話をさせていただきます。大学入試自体は高等局の業務ですので、私も参加はさせていただいてはおりましたが、基本、御質問対応ということでフォローだけさせていただいておりました。今、初中局としても、冒頭からございますとおり、大学入試がどうなるのかということについて、今、高校から大きな声がどんどん広がっております。ずっと私も全体のフォローですとか、きょうの議論もお伺いして、やっぱりまだまだ、高校・大学側、入試側と学校現場というところに、残念ながらまだ大きな乖離があると感じざるを得ないと思っています。

初中局の観点といいますか、やはりここにいる皆さん全員の観点として、やっぱり受験生が一番だと、受験生の不安を取り除くことが一番だということは当然だと思っておりますので、私どももその観点から、しっかりと高等局と一緒に進めていきたいと思っております。

まずは今の説明がございましたが、今後を見通せる、どう見通していくのか、今後がやはり不安だと、それが一番、試験は受けるんだ、やる中身はいいんだと。一体いつ何が起きるんだ、何をすればいいんだという今後を見通せるようなロードマップとか、あとは最初の方でも議論ございましたが、そういう今後の見通しを作った後、それをどう現場に伝えるのかというのは、私どももそこは、学校現場にどう伝えるのかというのは大変苦勞というか、いろんな経験もありましてノウハウもございます。

そういうところを、実際こういう時期でございますので、私どもも、例えば教育委員会

を通じた情報提供，こういう方式がいいとか，先生方にはこういう方式で通じるとか，私どもも教育課程が変わっていく段階で先生方にもいろいろ情報提供をさせていただくようなフェーズです。そういう中で，私どもとしてもしっかり一緒になって進めていきたいと思っておりますので，是非，ここにお集まりの関係の皆様方にも一緒になって進めさせていただければと思っております。

【山口座長】 それは是非，文科省内でもきちんと意思疎通を図っていただきたいと思っております。よろしく申し上げます。

ほかに何か御質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは，きょうは時間になりましたので，本日の意見交換はこのあたりにしたいと思います。

最後に，事務局から今後の日程につきまして説明をお願いします。

【竹花大学入試室長補佐】 次回の日程については，追って日程を調整させていただく予定でございます。よろしく申し上げます。

【山口座長】 きょうは議論が盛り上がったこともございますけれども，時間がかかりオーバーしてしまいました。申し訳ございませんでした。

また，参考資料もいろいろ付いておりますので，是非時間の許す限りお目通しいただいて，貴重な資料がございますので，よろしく申し上げます。よそには出してない資料もございますので，取り扱いにも御注意いただきたいと思います。よろしくお願いたします。

また次回，よろしくお願いたします。きょうはこれにて散会といたします。

ありがとうございました。

— 了 —